

危機言語・危機方言の記録と記述と復興 Endangered Languages and Dialects in Japan

いま世界中の弱小言語が消滅の危機にあります。

なぜ、弱小言語を守らなければならないのでしょうか。

下の地図はUNESCOが2009年に発表した *Atlas of the World's Languages in Danger* (世界消滅危機言語地図) 第3版です。世界中で約2,500の言語、日本では8つの言語が近いうちに消滅する危険性があると指摘されました。しかし、多くの方言もまた、消滅の危機にひんしています。

伝統、文化の継承を支えてきた言葉を失うことは、自然の貴重な教科書を失うことに等しい (2001年 テプファー国連環境計画事務局長の発言)



言語はアイデンティティの象徴。言語がなくなると地域のアイデンティティが確認しにくくなる。

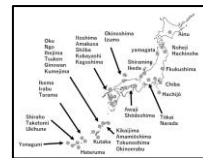
<http://www.unesco.org/languages/atlas/index.php> (2020.08.10)

言語には知識・思考・感情・感性の基盤としての役割がある。言語の多様性が失われれば、異なる知識の体系に接する機会がなくなってしまう。

多様性を守るために以下の3つのプロジェクトで活動しています。

国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

全国40地点の方言の辞書・文法書・談話テキストを作成しています。危機言語・方言のデータを公開しています。



危機言語DB

全国40地点の調査 <http://kikigengo.ninjal.ac.jp/>

人間文化研究機構広領域連携型プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」

宮崎県椎葉村、愛知県木曾川町、青森県むつ市、八戸市などで、地域の人たちと協力して、方言の合同調査を行っています。全国の大学生・大学院生が公募により参加します。



日本語諸方言コーパス(COJADS)
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cojads/search>

人間文化研究機構「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化」事業

各地でモバイル型展示ユニットを使った展示を行っています。文化庁と協力して毎年「危機言語・方言サミット」を開催しています。



モバイル型展示ユニット



椎葉村方言調査風景



危機言語・方言サミット(与論)